

関西大学

東西学術研究所紀要

23

文化・文政期の対州（対馬）窯をめぐる…泉 澄一（1）

清代大黃の販路について……………松浦 章（43）

朝鮮朝の外国語教育と訳科倭学について……鄭 光（57）

世界仏教史の立場から見た正統空海伝の
成立過程……………小林信彦（1）

コチニールの飼養……………角山幸洋（83）

POUND VS. REDUCTIONIST ORTHODOXIES
…………… Carroll F. Terrell (141)

平成二年三月

関西大学東西学術研究所

編集後記

平成元年度の『東西学術研究所紀要』第二十三輯をお届けします。邦文のもの五編、英文のもの一編ですが、今号は研究所の名に相応しく東西の学者、招聘研究員で韓国徳成女子大学の鄭光教授とアメリカのメイソ大学（オロノ校）C・F・テレル教授の論考の二篇を掲載することができました。

縦組論文の第一は泉研究員の「文化・文政期の対州（対馬）窯をめぐって」。従来知られることのなかった文化・文政期の対州窯に関して、長年にわたる宗家文書調査の成果を駆使しその推移を克明に跡づけたもの、従来知られることのなかった数々の新説を読み取りうる。第二は松浦研究員の「清代大黃の販路について」。古くから大黃はヨーロッパのみならず諸外国で渴望された薬剤であったが、どのように中国国内の原産地から外国に輸出されていたか明らかでなかった。本報告は、清代において大黃が甘肅、四川省等の原産地より漢口鎮等の中継地を経て沿海港市から輸出されるまでの流通状況を解明している。第三は鄭光研究員の「朝鮮朝の外国語教育と訳科倭学について」。古代以来の訳官（通詞）養成の歴史をふまえ朝鮮朝における訳官の登用とその制度について論考を加え、なお倭学訳官玄啓根の事跡を紹介された意欲的な論考。

横組の第一は小林研究員の「世界仏教史の立場から見た正統空海伝の成立過程」。一〇世紀の極東の島で起こった微細な出来事をインド以来の仏教思想の展開を踏まえて理解しようとする試みであり、個別事象の追及を通じて日本文化の本質に触れようとする意図が秘められている。なお、「比較研究班」では、本年度から丹治昭義教授を代表者とする共同研究『大乘起信論』の研究」が開始されたが、本論文はその最初の試みである。第二は角山研究員の「コチニールの銅産」。メキシコ原産のサボテンに寄生する虫、動物染料コチニールはスペイン人が発見、ヨーロッパに輸出し「紫銅」を駆逐、独占的に外貨を獲得。羊毛染色に適し「猩々緋」としてわが国へも輸入された。このコチニールの新大陸における飼養状況、旧大陸との貿易関係、わが国への染色品としての輸入と導入などについて克明に跡づけている。第三はテレル教授の「POUND VS. REDUCTIONIST ORTHODOXIES」。ヘメラ・パウンドの「歴史に光を当てること人間にとっての善とは何かを学ぼうとする貴さ」との観点から、西洋におけるキリスト教と哲学の歴史を独自の方法で概観し、パウンドのいう「論理に頼って絶対的真理を得ようとすることの誤り」を指摘すると共

に、洞察力に満ちたパウンドの宇宙観を展開されている。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
本年度の当研究所の出版物は、①奥村郁三・藺田香融共編『令集解官位令語』
句索引』（研究叢刊七、A五判四二六頁、六、五〇〇円）②『東西学術研究所
紀要 第二十三輯』（B五判二四三頁）③『東西学術研究所々報 第五十号・
五十一号』（B五判四頁・六頁）④『泊園 第二十八号』（A五判七十七頁）
の四点です。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
本年度の研究班および研究員は昨年度の継続ですので変更はありません。ただ、今回は毎号恒例のこの人事移動欄を書く筆が大変重たく感じられます。それは、この研究所の事務を担当してこられた遠藤さんが三月末日をもって退職されることになったからです。遠藤さんは、昭和三十五年に関西大学職員としての生活を始められましたが、それ以降いくつかの部局の勤務を経られたのち、昭和五十三年以来十二年、関西大学生活のもっとも長い時間をこの研究所に勤務され、その間文字通り縁の下で研究所の活動を支えて下さいました。ここで、僭越ながら本研究所の研究員を代表し、長年にわたるお世話に対して感謝の意を表したいと思います。

（三月二十日 日下記）

平成二年三月三十一日発行

編集者 大阪府吹田市山手町三丁目三番三十五号 関西大学東西学術研究所

代表 名 取 栄 史

印刷者 京都市下京区中堂寺鍵田町二 株式会社 印刷 同 朋 舎

発行 大阪府吹田市山手町三丁目三番三十五号 関西大学東西学術研究所

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL
AND
OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 23

MARCH 1990

CONTENTS

- On the Taisyu (Tsushima) kiln
in the Bunka•Bunsei Period..... Chōichi Izumi (1)
- On the Circulation of the Chinese Rhubarb
in the Qing (清) Dynasty..... Akira Matsuura (43)
- On Foreign Language Education and
State Examinations for Official
Interpreters of Japanese during the
Yi-Dynasty..... Kwang Chung (57)
-
- The Formation of the Biography of Kūkai as
Viewed from the Standpoint of the Universal
History of Buddhism..... Nobuhiko Kobayashi (1)
- Fundamental Study of the Method of Breeding
Cochineal..... Yukihiro Tsunoyama (83)
- Pound vs. Reductionist Orthodoxies..... Carroll F. Terrell (141)
-

EDITED BY
THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND
OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA